1994年12月15日 第三種郵便物認可
ISSN1880-4063
（１） No. 450 第三種郵便物 げんぱつ 2026年9月25日（金）

第450号
２０２６年
９月25日
月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 持田繁義／1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
MMビルⅡ402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
携帯 090-4612-6796
郵便振替 00150-7-355202
ホームページ http://genpatu.com/index.html
メール＝genpatu-c@bizimo.jp

「核燃サイクルからの撤退、核のゴミの処理・処分を求める全国交流集会 伊 in むつ」

全国交流集会特別号

「記念講演」「特別報告」を聞いて「全ての原発は廃炉」の認識を深める

東電福島第一原発事故から15年、「原発ゼロと住民本位の復興を求める8・30ふくしま集会」が、福島市パルセいいざかで開かれた。

開会に先立ってコープふくしま河野雪子副理事長から、生協や県漁協などが呼びかけた「アルプス処理水の海洋放出反対」署名が大きく広がり、25万７０５０筆を経産省および東電へ提出したことが報告され、住民の声を反映した復興を求めた。

日本共産党の岩渕友参議院議員は、原発回帰方針と国の責任を回避する姿勢、原発リプレースへの公的融資などを批判。再エネ出力抑制をやめさせ、徹底した省エネと地域共生型再エネへの本格的転換を呼びかけた。



基調報告では、ふくしま復興共同センターの野木代表委員が、国の原発回帰政策を批判。原発事故は二度と起こさせてはならない、その最大の保証は原発ゼロしかないと強調した。

福島の現状について、廃炉作業・デブリ取り出しが難航し、2号機で試験的に０・９gを取り出したものの、総量約８８０トン

＜全国交流集会のプログラム＞

司会＝柳町秀一・原住連事務局長

一、開会あいさつ
　山本 雅彦さん（原発住民運動福井・嶺南センター）
一、来賓あいさつ
　中嶌 哲演さん（原発設置反対小浜市民の会）
　木下 興さん（原発をなくす全国連絡会）
　山本富士夫さん（日本科学者会議）
　笠井 亮さん（日本共産党国会議員団）
一、記念講演「老朽原発の危険を語る」
　後藤政志さん（元東芝原子炉設計者）
一、特別報告「能登半島地震の原発への警告」
　立石雅昭さん（新潟大学名誉教授・地質学）
　――昼食――
一、反原発の歌――「福井のうたごえ合唱団」
一、問題提起 持田繁義・原住連筆頭代表委員
一、各地からの報告
一、「若狭湾からのアピール」」提案と採択
一、集会の「まとめ」 持田繁義・筆頭代表委員
一、閉会あいさつ
　林 広員さん（原発問題住民運動福井県連絡会）

（二面）福島原発デブリ問題、政府「棄民政策」大会目次
（三面）東通・大間原発 福島視察
（四面）浜岡原発 審査長期化

警鐘

●照明、高効率のＬＥＤ化進めれば、原発の再稼働は不要です。CO2排出量も減らせます●福島農民連の機関紙「HONMI 3月号」。タイトルは「原発〈火発は不要＝省エネ〈再エネ普及で地球環境を守り、経済の好循環を」です。８月30日の福島大集会での福島農民連佐々木さんからの報告に、衝撃を受けました。照明のＬＥＤ化は省エネに最も即効性が高いものです。ＬＥＤ化は電気代の大幅な削減になると同時に、重要なことは、様々な照明をＬＥＤに置き換えることによって年間約５００億Ｋｗｈ規模で電力の削減が可能なことです。これは百万Kw級の原発約7基分に相当します●一方、27年には、現在の蛍光灯の製造輸入が禁止されます。一気に公的機関、企業、家庭の照明のＬＥＤ化が加速するでしょう。政府・経産省が言う「原発最大限活用」などは自ら進める省エネ政策と全く相容れないものです。省エネを進めれば、原発再稼働など不要なのです●福島の現状が示すように、原発で事故が起これば、人々の生活・生業に甚大な影響を及ぼし続けます。原発は使用済燃料を初め、高レベル放射性廃棄物など、負の遺産しか残しません。まさに無用の長物です。人々の命・暮らしを守るために、直ちに全原発廃炉を選択するべきです。（立石 雅昭）